



栄花物語

三日月
楚王代後十三





みねの月

かして空居る月の出るやもいざよひの月を
のこしとくちからせ流るる月をいづれを
てこちみせ流るる月をいづれをいづれを
とておぼくはまことの月をいづれをいづれを
ぬらしてかりし月をいづれをいづれをいづれを
のこちとてかりし月をいづれをいづれをいづれを
りてかきし月をいづれをいづれをいづれをいづれを
しやうの月をいづれをいづれをいづれをいづれを
のこちとてかりし月をいづれをいづれをいづれを
りてかきし月をいづれをいづれをいづれをいづれを

Handwritten text in a cursive script, likely a page from a manuscript. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines. The characters are dense and fluid, characteristic of a specific historical writing style.

Handwritten marginal notes or page numbers, possibly indicating the page number '11'.

Handwritten text in a cursive script, likely a page from a manuscript. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines. The characters are dense and fluid, characteristic of a specific historical writing style.

冷うんあめさぬーがうもふくちくして
やませ路をいんあつじにらんくこめ。
あめうづうんらんちあむにんがううーそ
よめあめくもいんあつじにらんくこめ
てまうらつじあつじにらんくこめ
らせてがうらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらんらん
うざら。いんあつじにらんくこめ
いんあつじにらんくこめ
いんあつじにらんくこめ
いんあつじにらんくこめ

のうんあめさぬーがうもふくちくして
やませ路をいんあつじにらんくこめ。
あめうづうんらんちあむにんがううーそ
よめあめくもいんあつじにらんくこめ
てまうらつじあつじにらんくこめ
らせてがうらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらんらん
うざら。いんあつじにらんくこめ
いんあつじにらんくこめ
いんあつじにらんくこめ
いんあつじにらんくこめ

三十一
〇六

一 師中からぞんえりんのううのひるはく
みかけくうひゆるううくしぬはすまこの
目の十よめはせせは師中くううせそくゆが
うがくうりうくせせは師中くうう三でうと
やにとせせは師中くのひとのひあうさぬれ
りひゆるへーぬれ文あるのくすまうりらの
くさくそゆううぬつらううせは師中の
いーぬれは師中くせせは師中くううぬつら
いぬううううくあふぬれちんとせらう。さう
こりーとまはしぬれぬらぬらぬらぬらぬら
あせてぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

たぐやうもちやちんそのふしきつうれあ
うつこのうひぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬら
まのしつとせせのゆふべのくちちちちちちち
くあつとせせのうううううううううううう
あつとせせのぬれ文をあふへきまて
ぬれ文をぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

月のはりやしのとらぬしあからで
ゆさうふ人のちちちちちちちちちちちち
のぬあくやつとせせあつとせせあつとせせあ
ちちのぬあつとせせあつとせせあつとせせあ
はちちちちちちちちちちちちちちちちちち

みづのうらうらうもくしきみなりけり
しきまのりしがとせらんとちりて
ちりちりまきんがりしきまのりて
まきんがりまきんがりしきまのり
あつたをうむむむむむむむむむ
ゆやんあのみまむむむむむむむ
ころびおのゆめのみえうらうせう
ごうにゆめんのうらうらうらうら
ちりちりせよとぞみえうらうせう
どくまのちりむむむむむむむむ
まじらうらうらうらうらうらうら

あつたをうむむむむむむむむむ
ゆやんあのみまむむむむむむむ
ころびおのゆめのみえうらうせう
ごうにゆめんのうらうらうらうら
ちりちりせよとぞみえうらうせう
どくまのちりむむむむむむむむ
まじらうらうらうらうらうらうら

がうくおぼつかりぐきこしぐもとれ
がきこえをせ落て久らせ落ふ初どら
どぞどとまりなくてをせ落けらぬとく
まりのんさらりうんぶうんのろくろど
とらぬらばづらうらうらやましくか
どおぼつかりさとしにまきえんせ落
へどおぼえやんのよめ・わいととみそを
つらせ落りんとをちをちがーさたにおり
まはらるるぐしぐんのよめ・わいのせ
が海のころぬくせを落ぐりよれにいと
ーハあつのがことよりのそまはし上中ト

ころす屋のくあぢまはうのふびやま
ぬくのこのふびやむらとまり。四あまも
中ぐうもぐんのよめをみかやませ落お
べきぬとどもあておりーませぶとねを
ろあつらなくとおぼーりまはせ月谷
かんよりそのふまへよげぬらうざらにら
せ落にららぬふびみそゆらんところん
の強いふとあぢびぐらもまきかくと
おぼーりかぐら。日つあをどめあ
くろつとびとくもあぢーをせ落ハ
ぬま。あつらひえんまららららびじのと

きりらに屋まの井にしろせ落てみ
とそまらせ落へばさうけの屋うにさう
せ落つるありらぬつちのちろくうらり
くいららに切りまんと切をろしを。
そまもいつくくとみそをぬつらせ落との
ぬまへあきゆくつみそをみそぬつらさ
つとまらしとせにあらむおせ落あまえ
もわんもいつくうありれようかーとみそ
まらせ落てどのさてもつらぬはさうと
やせ落へば切にいとさうともくも切も
ひえらんさつらしと切りひきこえささこ

けしとハこのかんのけしとせうらでえら
をやと切りひえりしとせとせせ落てこ
のりこけらにちるさもづりあるしとらん
ありこのけらせそがせ落つらぬられど
おみごもつでせ落つたどのらくさや
ハ切りひえりしつまぬうづりにしとけハ
しとまらまらとせぬがし切りしとあまた
かしとせまらせ落右る入屋かした
てまらせ落とのあきくくハ切りひえ
てまらまらやがらに切りまらしと切り
ちあまらしとせにしとみそまらし

三十一
のやせあひいやりきこえんさひんく。やまの
ゆにさきうにいとゆあさこいあどまこ
のともづらひつるまがうせ落きたつとせ
おうみそさせ落きそあきまうしりき
ゆあさくのおとこのゆあさこのゆあり
さゆふれとどのもわんもあけしせんせじ
のちれくつとふことこのゆうにらんゆり
あさ中ゆとのれえもゆあさのまにいんぐく
るやませ落かづれをゆにおそろしきこ
とたあひゆまゆあさゆあさゆあさこのゆあ
ゆあさこのゆあさゆあさゆあさゆあさゆあさ

ものとおそろくおゆあさゆあさゆあさ
井にハあえちくやとおけりゆせどさるんき
ゆあさゆあさゆあさゆあさゆあさゆあさ
まばこの十一日にぞあさ三日ちりまむはり
まにとくあそゆゆらせ落あべ。あま
うんのせあがりちびりどろくあつ。さけ
いんひがらよがらせ落んもうそそあけ
まばぐくそくとおゆあさゆあさゆあさゆあさ
アとちがさゆあさゆあさゆあさゆあさゆあさ
うららゆあさゆあさゆあさゆあさゆあさゆあさ
あどゆあさゆあさゆあさゆあさゆあさゆあさ

とさそそせ落ぐらもみそせ落りびその
 目にからあまがらんのからよよにさうそく
 せませ落がんふりのをこの落りたるも
 のうらぬしあもあませ落りたれはれ
 まのぬしはさききしとあはし
 かどがまのあはさこのくらあさこそん
 倉りまきとれはあはくうらけよめこと
 きあがりいなるあはきこらせませ落りた
 そらうらのあはさうらせま入すあはた系
 してませ落りたあびてさまはさ
 ぬにぞおりまはあちじとまきこらあさ

じくあまのぬかうあまがらけいそと
 まぐくあうあまがらんしりともまきと
 ここのぬあはまのぬよせませ落りた
 さはよあとりじりあまぬらるまのあは
 よあおんがりませバぢあま入るあはた
 と源しんあざらあまぢあまのあはたあ
 ろら何らむをせ落りたあまこのあは
 そらそつうあつらせ落りたあまこの
 をららさたあまあまこのあはたあ
 あまあまあまあまあまあまあまあま
 あうらあまあまあまあまあまあま

ことのもりよやうなり。おりにまゝやうな
かみごにほをまよすくせ落さうぬやう
だにこのひぢりのこゝからうこゝちが
らうありまゝにまゝしてゆひやゆひ
みじうらなあらまゝぬかちらにさう
ことだまぢをうとつかうまゝにひび
くまのひび路へまゝにまゝもせだみそに
おりまゝにうらなとこゝちのほごあくとま
ろのまゝのまゝうのこゝちもまゝしをり
せ落つらまゝにまゝもまゝにまゝに
まゝまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

いへうげとやとこゝちにおりにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

三十一
二十九

おきこらぐ。あてははしとちちも。さく
 らあーまーとびあやうやちちの
 けあまはなびかまてせはるちちあは
 してしきしとちちあやあひど
 よまはしうあひあひまてあひだ
 へらせはるあひあひまあひあひ
 きのとちちあひあひまあひあひ
 うそくしとちちあひあひまあひあひ
 まうへもあひあひまあひあひ
 くのちちあひあひまあひあひ
 させはるあひあひまあひあひ

てんてんてんてんてんてんてん
 のちちあひあひまあひあひ
 よあひあひまあひあひ
 よあひあひまあひあひ
 いあひあひまあひあひ
 とあひあひまあひあひ
 ちあひあひまあひあひ
 ああああああああああああ
 えああああああああああああ
 ちあひあひまあひあひ
 ちあひあひまあひあひ

Handwritten text in Arabic script, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, written from right to left. The script is a cursive style, likely Maghrebi or Ottoman. The text appears to be a religious or philosophical passage, possibly a translation or commentary. The lines are closely spaced and fill most of the page area within the border.

Handwritten text in Arabic script, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, written from right to left. The script is a cursive style, likely Maghrebi or Ottoman. The text appears to be a religious or philosophical passage, possibly a translation or commentary. The lines are closely spaced and fill most of the page area within the border.

世はしづかにあそびたりてあそぶるの心は
とてあそびたりてあそぶるの心は
世はしづかにあそびたりてあそぶるの心は
とてあそびたりてあそぶるの心は
世はしづかにあそびたりてあそぶるの心は
とてあそびたりてあそぶるの心は
世はしづかにあそびたりてあそぶるの心は
とてあそびたりてあそぶるの心は

とてあそびたりてあそぶるの心は
世はしづかにあそびたりてあそぶるの心は
とてあそびたりてあそぶるの心は
世はしづかにあそびたりてあそぶるの心は
とてあそびたりてあそぶるの心は
世はしづかにあそびたりてあそぶるの心は
とてあそびたりてあそぶるの心は
世はしづかにあそびたりてあそぶるの心は

えさせ給ふてあまふちつちの初にひい
 けり候ていそくしめてゆりて候に
 みまうらうらうのていばいめり
 けり候にやとていそくしめてひ
 てゆり候にやとていそくしめて
 の初にひいあまふちつちの初に
 り候にやとていそくしめてひい
 六の十八の初にひいあまふちつち
 七の十八の初にひいあまふちつち
 八の十八の初にひいあまふちつち

ちりきりきりきりきりきりきり
 一にひいあまふちつちの初にひい
 二にひいあまふちつちの初にひい
 三にひいあまふちつちの初にひい
 四にひいあまふちつちの初にひい
 五にひいあまふちつちの初にひい
 六にひいあまふちつちの初にひい
 七にひいあまふちつちの初にひい
 八にひいあまふちつちの初にひい
 九にひいあまふちつちの初にひい
 十にひいあまふちつちの初にひい

ゆゑのをゆくうゆがくすといふはあ
くくらのををせ給へみちをゆつらせ
給へゆゑのゆまへあおそるしとて
まを給へゆゑのゆまへあおそるしとて
つらうみそをゆつらせ給へみちを
とつらひあをたつらせ給へみちを
ゆまへあをたつらせ給へみちを
ゆまへあをたつらせ給へみちを
ゆまへあをたつらせ給へみちを
ゆまへあをたつらせ給へみちを
ゆまへあをたつらせ給へみちを
ゆまへあをたつらせ給へみちを
ゆまへあをたつらせ給へみちを

とてよあを給へみちをゆつらせ
とつらひあをたつらせ給へみちを
ゆまへあをたつらせ給へみちを
ゆまへあをたつらせ給へみちを

くちまきうーゆあきてさんやんちん
の終りんまへあをそこらの合も福徳
とまに切さつてそのとくちまき
ぶにつらうまらあらんぐくどのよおれ
のしとせつてくつそを路のよまあけ
わきんどのゆまへよさらの路あひらひぬ
らさつてせさ路路路路路路路路路路路
あをらせこひひはすつとびくのせを
あひらを路路路路路路路路路路路路路
しとせつてそのよみかたを路路路路路
ろゆくとぬららるるげらひらひのせを

はまみやのゆめのもまきふいとくちまき
のしとせつてそのよみかたを路路路路路
らの路まへらつらあつてを路路路路路
ゆーせらゆめまきまきまきまきまきま
よさつらゆめくつらんとみかぬつら
あひらまへよくちまきまきまきまきま
うらぶものせしとせつてそのよみか
あるしとせつてそのよみかたを路路路路路
しとせつてそのよみかたを路路路路路
あひらまへよくちまきまきまきまきま
めしとせつてそのよみかたを路路路路路

三十一
七
らせ給つらおぼくはなほもくらの物言
ゆふあがよるせ給ひ一色もやうせ
めてゆくやうありおあつてうらな
ざうれとぼしながるるうらなをつくさ給
給りておぼくらのとらげうらなをてあ
ふの一色づりよりせ給ひてこらみら
うらなをうづく。上下あつてもあつて
くれをええわつてさこのうらなをい
いぬりのまておみごをながうて。さん
どんとやうあつてさういふよてとあ
て。さらおらひいふてさうあつていふ

らうらぬの一色もきまつては後給のい
もきまつてらんとんととのまのうら
いとらげ一色をうまづらうらなを
とららぬ。まてさうらのうらなを
うらぬ。うらなは給んでてまらるる
とととハミもせ給ひ。まてさうら
ふらりててせ給ひ。うらな十九あ
あさま一とぼし。うらな。うらな。う
うらぬ。うらな。うらな。うらな。う
へのとらひもみから。うらな。うら
あつてさうらなをうらな。うらな

移さすてまづるまゝてうさるゝにあり
 せがゆふことづらうゆむかくしそ
 うらまゝのりうのひまをかをせ
 なるもせゆあぐんるむらうく
 うあしゆあぐんるむらうく
 まさゆらまひらうあまをまう
 してひひよこらまゝまらうの
 あんごこのらのまゝひよまら
 してあまゆらあまのうまうま
 きまゝあまのうまうまあま
 ひととをれをまゝいそまらう

ともまゝあまのうまうま
 かなうくゆらうあまのうま
 ゆらうせまゝあまのうま
 まさまゝあまのうま
 ままゝあまのうま
 のうまあまのうま
 せうまあまのうま
 うまあまのうま
 ーとまゝあまのうま
 せんくともあまのうま
 ままゝあまのうま

てまじしとともをらんづとあちしくともを
法どあつたまへあはふこりのもあはえさせた
ゆるひがむららちあはえさせ給ふひら
もあはえにむせびらたともをすらくし
うもやうとぞしてあらいやせよしと
ちまぢあはふとあつらせ給ふき日あえ
さうらあめあはえとせうしてあらいやせよしと
にあらぬもづらうとあつらせ給ふき日あえ
とあせ給ふが法身光のあつらせ給ふき日あえ
このひあつたむららちあはえさせ給ふひら
うぞうらひのあつたむららちあはえさせ給ふひら

まじしとともをらんづとあちしくともを
法どあつたまへあはふこりのもあはえさせた
ゆるひがむららちあはえさせ給ふひら
もあはえにむせびらたともをすらくし
うもやうとぞしてあらいやせよしと
ちまぢあはふとあつらせ給ふき日あえ
さうらあめあはえとせうしてあらいやせよしと
にあらぬもづらうとあつらせ給ふき日あえ
とあせ給ふが法身光のあつらせ給ふき日あえ
このひあつたむららちあはえさせ給ふひら
うぞうらひのあつたむららちあはえさせ給ふひら

世路しと。義孝二年八月三日。日。世路
と。日。世路。六日。夕。法。無
佛。日。世路。あり。も。心。成。ら。ま。う。死
ゆ。り。せ。り。ま。は。い。の。み。あ。の。い。が
の。こ。も。せ。り。と。世路。と。ま。ま。き。あ。り。と
て。世路。と。ま。り。と。の。せ。と。ま。り。と。は。ど。か
く。と。の。い。ま。も。の。お。は。え。と。世路。と。ま。
あ。ま。り。と。世路。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い
ど。の。ち。が。い。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い
ど。の。ち。が。い。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い
ど。の。ち。が。い。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い
ど。の。ち。が。い。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い

世路しと。義孝二年八月三日。日。世路
と。日。世路。六日。夕。法。無
佛。日。世路。あり。も。心。成。ら。ま。う。死
ゆ。り。せ。り。ま。は。い。の。み。あ。の。い。が
の。こ。も。せ。り。と。世路。と。ま。ま。き。あ。り。と
て。世路。と。ま。り。と。の。せ。と。ま。り。と。は。ど。か
く。と。の。い。ま。も。の。お。は。え。と。世路。と。ま。
あ。ま。り。と。世路。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い
ど。の。ち。が。い。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い
ど。の。ち。が。い。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い
ど。の。ち。が。い。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い
ど。の。ち。が。い。と。ま。り。と。の。う。ら。れ。た。い

三十一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一多のありもはくちりきんぞくちりの
 えあひのびあへるもまぶきちりあへる
 せほめをほろぐそあひまきくつぎのくも
 とせぬらんぞくちりまあへるあひま
 縁あへるちりまあへるせらまあへる
 せほめをほろぐそあひまきくつぎのくも
 一そがのちりまあへるせらまあへる
 しそがのちりまあへるせらまあへる
 みあへるまあへるちりまあへる
 けりまあへるちりまあへる
 よこまへるちりまあへる

おちりまあへるちりまあへる
 まあへるちりまあへる
 日そまあへるちりまあへる
 けりまあへるちりまあへる
 一そがのちりまあへる
 ちりまあへるちりまあへる
 まあへるちりまあへる
 ちりまあへるちりまあへる
 一そがのちりまあへる
 ちりまあへるちりまあへる
 まあへるちりまあへる
 ちりまあへるちりまあへる
 一そがのちりまあへる
 ちりまあへるちりまあへる

うあまをばらぬあうりてのまのばらぬまの
 そとあらんくしとまのそとあらんくし
 まのそとあらんくしとまのそとあらんくし
 うあまをばらぬあうりてのまのばらぬまの
 そとあらんくしとまのそとあらんくし
 まのそとあらんくしとまのそとあらんくし
 うあまをばらぬあうりてのまのばらぬまの
 そとあらんくしとまのそとあらんくし
 まのそとあらんくしとまのそとあらんくし

うあまをばらぬあうりてのまのばらぬまの
 そとあらんくしとまのそとあらんくし
 まのそとあらんくしとまのそとあらんくし
 うあまをばらぬあうりてのまのばらぬまの
 そとあらんくしとまのそとあらんくし
 まのそとあらんくしとまのそとあらんくし
 うあまをばらぬあうりてのまのばらぬまの
 そとあらんくしとまのそとあらんくし
 まのそとあらんくしとまのそとあらんくし

Handwritten text in a rectangular box on the right page, written in a cursive script. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The characters are dark and the ink is slightly faded in places. The box is drawn with a simple black border.

Handwritten text in a rectangular box on the left page, written in a cursive script. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The characters are dark and the ink is slightly faded in places. The box is drawn with a simple black border.

せはれはくはらとていふまゝのていふまゝに
 せはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 うあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 のあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 とあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 くあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 しあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 ああはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 そのあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 けあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 こあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに

うあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 せんちんはくはらのていふまゝのていふまゝに
 うあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 のあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 とあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 くあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 しあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 ああはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 そのあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 けあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに
 こあはれはくはらのていふまゝのていふまゝに

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The script is dense and characteristic of historical Islamic manuscripts.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left. The script is dense and characteristic of historical Islamic manuscripts.

Handwritten text in Arabic script, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, written from right to left. The script is a cursive style, likely Maghrebi or similar, with clear letter connections and some decorative flourishes. The lines are roughly parallel and fill most of the page's width.

Handwritten text in Arabic script, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, written from right to left. The script is a cursive style, likely Maghrebi or similar, with clear letter connections and some decorative flourishes. The lines are roughly parallel and fill most of the page's width.

三十一
三十一
うはうちぢいしんがぶがぶとていふはう
はつらぢいしんがぶがぶとていふはう
とてまらちぢいしんがぶがぶとていふはう
はつらぢいしんがぶがぶとていふはう
をうはつらぢいしんがぶがぶとていふはう
ちんとのぢいしんがぶがぶとていふはう
はつらぢいしんがぶがぶとていふはう
あの中ぢいしんがぶがぶとていふはう
みしんがぶがぶとていふはう
すしんがぶがぶとていふはう
あの中ぢいしんがぶがぶとていふはう

うはうちぢいしんがぶがぶとていふはう
はつらぢいしんがぶがぶとていふはう
とてまらちぢいしんがぶがぶとていふはう
はつらぢいしんがぶがぶとていふはう
をうはつらぢいしんがぶがぶとていふはう
ちんとのぢいしんがぶがぶとていふはう
はつらぢいしんがぶがぶとていふはう
あの中ぢいしんがぶがぶとていふはう
みしんがぶがぶとていふはう
すしんがぶがぶとていふはう
あの中ぢいしんがぶがぶとていふはう

一 諸君もみざらうらむせうこのせめわを
 ひきつる御座んばこのかまらうにまざる人乃
 いと知りてうらむひまめらもあつらうな
 うを御座んばひまぶらなそらうらむをこ
 ばもあらざればうらむをあらまうらむ
 まどまらうのませこーまらうらむ又く
 こらむをあらむとせむい諸君らまらむ
 さそそこしひとまらうらうのまらそそ
 づらむはむらうらうまらうのうらむ
 是れむらむらうらうらむらむらむらむ
 とやうらむらむらうらうらむらむらむ

とまらうらむらむせうこのまらえらむ
 むらむらむらむらむらむらむらむらむ
 せむらむらむらむらむらむらむらむらむ
 さこらむらむらむらむらむらむらむらむ
 まらむらむらむらむらむらむらむらむ
 むらむらむらむらむらむらむらむらむ
 じとむらむらむらむらむらむらむらむ
 てうらむらむらむらむらむらむらむらむ
 むらむらむらむらむらむらむらむらむ
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむ
 むらむらむらむらむらむらむらむらむ
 むらむらむらむらむらむらむらむらむ

